

秋のふるさと交流会

兼続と秋の上越探訪

中野区 小田切松枝（北城町出身）

日かげりて彩りを深めし秋の滝
神の鈴ふれば団栗またひとつ



小田切さんと親鸞像



本堂に続く等目菊日和

戻りきて十月桜もういちど

北城高校同窓会に出席の折、当時の会長の勧めによりネットに入会いたしました。仕事の関係でサロン、その他の行事にも参加出来ずになりましたが、このところ皆様と会う機会が多くなりました。

秋の旅も今回で三回目の参加です。「たかだ、たかだ」の駅員のアナウンスは今はない。しかし今も長野から妙高山を仰ぎながら古里に帰るのが大好きです。いつしか妙高号は、居心地がよく落ち着く列車となっているようです。

秋の旅も今回で三回目の参加です。「たかだ、たかだ」の駅員のアナウンスは今はない。しかし今も長野から妙高山を仰ぎながら古里に帰るのが大好きです。いつしか妙高号は、居心地がよく落ち着く列車となっているようです。

秋の旅も今回で三回目の参加です。「たかだ、たかだ」の駅員のアナウンスは今はない。しかし今も長野から妙高山を仰ぎながら古里に帰るのが大好きです。いつしか妙高号は、居心地がよく落ち着く列車となっているようです。

滝寺不動尊 畿沙門堂

山間の道を車を走らせ滝寺へ、滝寺と

十一月九日（月）

朝食に、ひとりの女性が携わって下さ

琳沙門堂に関しては、会報二七号に掲載されましたので、「存知」と思います。随所から湧き出ている水、周りの物はすべて苔、苔、「さざれ石の庭となりて苔のむすまで」を思い出す。水が押し滝となり、落下した水は流れとなり、長い長

い旅の始まり、人生も又旅、そんな思

いがふと心を過ぎる。琳沙門堂は、更に急坂を登る。戦勝祈念というより、今は旅の無事を祈念して坂を下る。

山粋う中、くわどり湯つたり村を目指

淨興寺

十一月八日（日）午後一時直江津駅集

合 総勢二十二名。早速荷物をバスに積

み、最初の目的地である寺町の淨興寺に向かう。折りしも菊花展の最中、踊瀧橋

渡り菊のアーチを潜り、両側に丹誠さ

れた菊を鑑賞しながら本堂の方に行く。

山間の道を車を走らせ滝寺へ、滝寺と

十一月九日（月）

朝食に、ひとりの女性が携わって下さ

生國は越後と答ふ温め酒

いました。その古里訛りの喋りが心地よ

く、ふと私の心中に祖母を感じた。こ

の山の景色と同化されていて、光り立つ

新米と共に、私の中では十二分にかつこ

よかつた。

岩殿山 明静院

八時三十分出発 本日の最初の見学

地・岩殿山、明静院に向う。入口には道

標と右に銀杏の木がある。足に自信のな

は新潟県内で最大の寺で東本願寺派の寺院として栄えましたが、昭和二十六年淨興寺派として独立し本山となりました。

滝寺不動尊 畿沙門堂

山間の道を車を走らせ滝寺へ、滝寺と

十一月九日（月）

朝食に、ひとりの女性が携わって下さ

生國は越後と答ふ温め酒

いました。その古里訛りの喋りが心地よ

く、ふと私の心中に祖母を感じた。こ

の山の景色と同化されていて、光り立つ

新米と共に、私の中では十二分にかつこ

よかつた。

岩殿山 明静院

八時三十分出発 本日の最初の見学

地・岩殿山、明静院に向う。入口には道

標と右に銀杏の木がある。足に自信のな

い人は車で、私はハイキング気分で、秋風と道端の花を愛でながら登つて行く。

登りつゝと、天台宗・五智国分寺、奥の院がある。本堂を拝見させていただき、そこには、行基の作と寺伝されている木造大日如来座像が安置されている。境内には大國主命と奴奈川姫の子である、建御名方命が誕生したという岩窟や、上杉謙信の供養塔がある。寺の右側に花芽をつけた枇杷の木が寺を象徴するかの様に私の目を捉える。

豪雪の時の暮しは大変ではと考えながら山を下る。次の見学地居多ヶ浜記念堂へと向う。

秋蜘蛛のとりことなりし道標
思惟仏に母のまなざし枇杷の花



居多ヶ浜記念堂
承元元年、専修念仏の教えが弾圧され、京都より越後国府に配流となつた親鸞が

ここから上陸したと伝えられる。居多ヶ浜を見下ろす高台上に展望台が整備されている。展望台の奥には、親鸞の上陸を記念して建てられた居多ヶ浜記念堂、親鸞の像が安置されている。ここは地元の女性達で運営されている様で、当番の人が見学者の案内をする。お茶をこち走

になると言ひしがとても長くなり、席を立つのに苦労する所です。越後七不思議の一つ「片葉の草」が見られます。淨興寺にあつた「八房の梅」も七不思議の一つといふことをここで解りました。

秋蝶の影ひきてゆく見真堂

越後路や片葉の草に風の寄る



天・地・人博

NHKの大河ドラマに合わせた会場です。入口で若武者姿の案内人の説明を聞き、関の声を揚げ、毘沙門堂入口より入場する。ドラマに登場する役者、セット、小道具等の紹介である。写真を見ながら進む。「あの時の場面ね」と楽しそうな会話が耳に入る。私は戦国の世の女達の生き様に思いを馳せる。

関の声木遣返りか賜高音



直江津、ホテルハイマート内「多七」
で昼食、旅の前半は解散となる。

苗名滝

後半の旅、一時直江津出発、冠雪の妙高山を仰ぎながら紅葉真っ盛りの中、妙高高原・苗名滝を目指す。ここは馴染の滝ですね。別名「地震の滝」。遊歩道が

整備されて逆に滝まで遠くなつた様な気がしました。滝の前の吊橋の真中に立ちしばらく目瞑る。滝の鼓動が私の胸中を震わせる。ここに在る全ての物を呑み込んでも轟音を残し流れ去つて行く。私は黙し、ただそこに立つている。

吊橋を渡るバランス雁の棒
山紅葉つなぎ吊橋渡りけり



いもり池

十日の予定になつていて池の平いもり池を散策する。周囲五〇〇メートルほどなので一周するのに大した時間はかかりません。湖面に写る妙高山が最高のスポットなのでしよう。今日は生憎のお天気葉の中に点在する白樺林を垣間見ながら

池の面に逆妙高山や枯れ芭
高原の風の意のまま枯れ芭



いもり池のさかさ妙高

野尻湖と一茶記念館

予定に入っていない野尻湖と一茶記念館を見学することになる。九時二十分野尻湖着。ここは、斑尾火山の溶岩流による堰止湖。湖底よりナウマンゾウの化石が出土。ここで湖を背に記念撮影。

次の目的地一茶記念館に着く。
「九輪草四・五輪草で仕廻けり」の句碑に出迎えられる。記念館は一茶の生涯をたどりながら貴重な一茶作品を見ることが出来る。柏原宿の様子や、一茶に関する資料なども展示されている。十一月十九日は一茶忌で全国俳句大会が柏原で行われています。私も一句投句第に投稿いたしました。一茶旧居跡は宿場の大火災で類焼し、十一月十九日焼け残った土蔵で六十五歳の生涯を閉じました。今でいえば、一Kでしょうか。

自然と、小さな生き物をこよなく愛した一茶。この柏原で生を受けたことが一番よかつたのかも知りません。人間は土に根を張つて生きることが何より大切だ。朝食前に、岡倉天心像を見学することにする。七時に待合せ、藤沢さんのガイドで登りはじめめる。冠雪の妙高山を眼前に、日の陰の側道には雪が残つていて風が冷たい。取り留めのない話をしながら行くと次第に汗ばんでくる。ふと目を上げると景色が変化している。木々が裸木となつてすっかり冬支度だ。一度その天心像と思い比べる。

十一月十日（火）
岡倉天心史跡記念六角堂

朝食前に、岡倉天心像を見学することにする。七時に待合せ、藤沢さんのガイドで登りはじめめる。冠雪の妙高山を眼前に、日の陰の側道には雪が残つていて風が冷たい。取り留めのない話をしながら行くと次第に汗ばんでくる。ふと目を上げると景色が変化している。木々が裸木となつてすっかり冬支度だ。一度その天心像と思い比べる。

紅葉舞ふ一茶土蔵の一つ窓
冬の蝶日のある方へ黄泉みえて



一茶記念碑の前で

駒ヶ尾城と勝福寺

身に入むや斐太にりりしき武者の像
行く秋や道祖神は石の手つなぎ

私はこの城の名前を初めて聞いた。景勝と景虎が後継をめぐつて景勝が勝つたところの程度の知識しかなく、負けた景虎など思いながら車中の人となつた。途中出てくると、そう一茶は語つているのかなと思いつながら車中の人となつた。途中の駅で休憩をとり一路最後の見学地である駒ヶ尾城遺跡へと向う。

行く秋や湖面をすべる風の色
行く秋や一茶忌近き柏原



勝福寺

胸の中に刺す様に食い入つて来る。思わず空を見た。平和な秋の空だった。辛うじて涙が落ちるのを防ぐことが出来た。供養碑と景虎公石像に手を任せた。さつないだ道祖神に出会つた。少し気持を和げることが出来た様な気がした。現在二十六歳で逝つた漂々しい景虎公に別れを告げた。寺の右門際に夫婦仲良く手をつなぎ、小田原に帰りたかったのではとぞかし小田原に帰りたかったのではと、も四月二十九日に法要が行われている。住民の心の深さ、やさしさに感謝しつつ寺を後にした。

鮫ヶ尾城跡

上杉謙信の死後におこった御館の乱では、上杉景勝と家督を争って敗れた上杉景虎が、相模国小田原に逃れようとして、当城に立ち寄ったが、城主堀江宗親の裏切にあり、ここで自刃した。城は景勝の持ち城になつたが、景勝の会津移封のち廃城とされた。頂上の本丸跡からは高平野を眼下に妙高や日本海まで一望することができるそうです。この辺り史跡公園に整備され、「ひだ歴史の里」となつていて広場、野外炉、釣り堀などで楽しめるところです。帰郷された時ぜひ足を運んでいただきたいと思います。

斐太の秋昔むかしが新しく
死の重み生きてる重み秋日燐

中食処「三恵」

全行程を無事に終り、秋色の古里の中食処「三恵」に着く。盛り沢山の「山の」駆走にお腹、心とも大満足「来年も逢いましょう」を「さようなら」の言葉代りに解散。

冬に入る旅の終りの鮓三昧

今回の旅は、良い天気に恵まれただけでも最高。空澄み、水澄み、空気澄み、ふるさと何処をとっても紅葉々々。

冠雪の嶺と裾濃き紅葉の妙高山は最高。山眠る前の山粋うを、まああたりにした私は幸せ。食事も盛り沢山、おいしいの全部平らげる。身体に優しいメニューに感謝、そして美味、新米の匂いと光たつこ飯に「おかわり何ばいめ」？文句なくおいしい。宿もよし。湯ったり村では実家に帰った様な感じ。方言の喋りが耳にやさしく心地よい。妙高山を眼間に満足、この景色と自然を詠み妙高山ファンを増したい。部屋もゆつたりして居心地がよい。尚二晩とも、食べ、飲

み、歌い、語らひ和氣藹藹と時を過ごすことが出来充実した旅を経験させていただきました。

盛り沢山の見学地の設定にもかかわらずスムースに見学出来たことをうれしく思います。参加者の年齢と体力を考慮して時間の調整をされたのでしょう。それには入念な下準備があつたことと思います。和久井会長、幹事の中村真和さんに厚く御礼申し上げます。



あかくら荘で



淨興寺の菊花



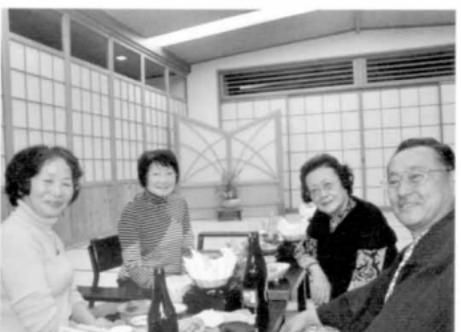
淨興寺で



滝寺不動尊



毘沙門堂



湯ったり村の宴会



湯ったり村カラオケ大会





いもり池の三美人



湯ったり村で



苗名の滝



苗名の滝入口



あかくら荘での宴会



あかくら荘での宴会



野尻湖畔で



カラオケ大会